

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	養老町	学校名	岐阜県立大垣養老高等学校			
校長名	田中 治	対象学年	2・3年生	人数	8人（瓢箪倶楽部秀吉）	
活動名	養老の瓢箪を世界へ発信	時間数	70	時間	継続年数	4年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [食用瓢箪の育種と普及] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [養老改元1300年本祭] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [瓢箪加工の技術の伝承] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [瓢箪特産加工品開発] ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [瓢箪イルミの制作] ⑥ その他（国際文化交流） [養老町日独交流事業]					
複数年継続するための工夫改善	養老町特産の瓢箪を題材に、年々活動の幅を広げている。今年度は養老町内34軒の農家と協力した栽培や、町内15のこども園や小学校、そして役場やNPO法人と協力してひょうたんイルミネーション制作と展示を行い、地域との交流を深めた。さらに、東京オリンピック・パラリンピック避暑対策の提案を目標に定め、生徒の意欲を高める活動を継続した。					
<p><b>1 ねらい</b></p> <p>瓢箪の栽培や加工を通して、専門科目の授業や実験実習で学んだ知識・技術を応用する力を身に付けるとともに、地域と連携しながら生徒達の手で地元を盛り上げる活動に参加する。そこに生まれる絆を地域活性化の基盤としていく好循環をもたらし、生徒には主体性と郷土愛を育むことをねらいとした。</p> <p><b>2 活動の概要</b></p> <p>養老町には瓢箪栽培農家と工芸品作家が多く存在したが、高齢化や担い手不足により減少の一途を辿っている。栽培と工芸技術を次世代へ継承し、より発展させていくために以下のような活動を実施した。</p> <p>①国内では珍しい食用瓢箪の栽培と特産品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工用品種との交雑を防ぐため、ビニールハウス内において全て人工受粉で栽培した。</li> </ul> <p>②町役場や地元NPO法人「ヨロスト」と協力し、瓢箪の苗2000株を町民に配布するとともに、養老の滝ひょうたんイルミネーションの制作会と展示を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>養老地区自治会に瓢箪栽培を依頼し、34軒の農家が協力していただいた。またイルミネーション制作にも30名の方が協力していただいた。</li> </ul> <p>③幼稚園や小学校で瓢箪ランプ制作会を開催し、次世代へ瓢箪文化を継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>養老地区15のこども園、幼稚園、小学校の児童約800名がイルミネーション制作。</li> </ul> <p>④廃線の危機迫る養老鉄道活性化のため、駅舎を利用して実習製品を販売する「高校生朝市」を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2回目を実施。実習製品を販売するとともに、瓢箪倶楽部の活動を紹介。</li> </ul> <p>⑤養老駅特設スタジオから月1回、高校生の手作り町興し番組をインターネットと養老町ケーブルテレビ向けに配信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国愛瓢会展示会養老大会参加。秋篠宮殿下に活動紹介するとともに、全国の瓢箪愛好家に食用瓢箪の栽培の仕方を紹介することができた。</li> <li>県下初PechaKuchaで活動紹介、岐阜県美術館長等とともに世界へ情報発信した。</li> </ul> <p>⑥養老町日独交流事業で、ドイツからの留学生に対し瓢箪ランプ制作会を実施し、国際交流と瓢箪文化の普及に貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、視察団計23名の方とともに、瓢箪ランプを制作。お土産としてドイツへ持ち帰っていただくことができた。</li> </ul> <p>⑦養老改元1300年祭に向けた瓢箪イルミ事業への参加とイベントでの瓢箪ランプ製作ブース出展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度来場者数約12,000人を上まわり、今年度は約17,000人来ていただくことができた。</li> </ul>						

### 3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

- ①瓢箪振興会の安田氏より瓢箪栽培の手法や工芸品制作の技術を生徒が学び、それを今年度は養老地区自治会の方々とともに、15のこども園、小学校に出前講座として出向き、瓢箪文化を伝承する役目を担うことができた。また、高校生朝市や高校生番組の配信が地域の方に活動を認知してもらうきっかけとなり、数多くの瓢箪ランプ制作のワークショップ講師の依頼が入り、生徒達を応援していただけるようになった。その一つの形として、養老改元1300年祭のメインイベントの一つである「養老の滝イルミネーション」は、園児から児童、自治会、農家、役場、NPO、そして私たち大垣養老高校生を加えた町民全てが手掛けた心こもったおもてなしの作品とすることができた。来場者数も前年比で4,200人強増え、特に3世帯がそろって養老の滝街道を散策する姿が増えたことを養老公園関係者の声として聴くことができた。さらにTEDと並び世界的に認知されているPechaKuchaの公開録画（県都市公園課企画）が、養老改元1300年祭イベントとして県下初の試みとして行われ、瓢箪倶楽部秀吉もプレゼンテーションを行い、「瓢箪の町 養老」を世界発信し、養老の町興しと知名度向上に大きく貢献している。
- ②今年度、全日本愛瓢会展示会養老大会が開催されたが、その招致には私たちの活動も話題として提供したと、愛瓢会関係者から教えていただいている。当日は、食用瓢箪の栽培方法を地元の方や全国から訪れた愛瓢家の方々と情報交換することができ、名誉総裁の秋篠宮殿下とも「うどん粉病」の話題を中心に歓談することができ、「瓢箪の町 養老」を全国にアピールすることができた。
- ③今年度は、東京オリンピック・パラリンピックの避暑対策に瓢箪グリーンカーテンを提案するための活動を開始した。県下全ての農業高校に栽培を依頼し、避暑効果の調査を開始した。そして、養老の滝イルミネーションの一角に各校で収穫された瓢箪でオリンピックシンボルを作成して展示した。さらに、長崎県にある鈴田峠農園（有）との連携が決まり、現在「パッションフルーツグリーンカーテン&ひょうたんイルミネーション」を国土交通省や経済産業省の公開テストに参加する活動を進めている。

### 4 活動を通しての生徒の変容

以下は、活動を通して生徒が考えまとめたことである。「私達は最初、特産品を開発し外から人を呼び込もうとしました。しかし人口が減少している今、それだけで良いのでしょうかこの活動を通して、町を興すには、町に住む人たちが感動し、笑顔になることが一番大切なことだと感じました。子どもを生み、ずっとその町に住んでいたいと思えるような町にすることが本当の町興しであり、鉄道を守ることもつながっていく。そんなことを、この活動から学びました。それを私達の手で実現できるように、これからも活動を続けていきます。」地域住民の方と協働は、郷土への愛着を育み、地域で主体的に生きる力を身に付けることができたと感じています。



写真1 養老笠郷地区自治会



写真2 笠郷地区瓢箪農園



写真3 老人会と協力出前授業



写真4 養老地区こども園



写真5 ドイツ姉妹都市国際交流



写真6 栽培協力者ランプ制作会